

# 第2期月形町地域福祉実践計画

## あずましプラン

# 目次

<b>序章 月形町の現況～わたしたちのまち、つきがた～</b>	<b>1～6</b>
1. 自然的条件	
2. 地理的条件	
3. 歴史的条件	
4. 社会的条件	
5. 経済的条件	
6. 保健・医療・福祉サービス等について	
7. 介護保険に関する現況	
8. 月形町社会福祉協議会の現況	
<b>第1章 町民と共に歩む～「あずましプラン」策定の軌跡</b>	<b>7～49</b>
1. 「あずましプラン」の目的	
2. 「これからの地域福祉計画をカタチにしていくのは…わたしたち」 ※委員会協議(1～5回)・答申書提出(6回)	
3. 月形町福祉でまちづくり推進フォーラム	
4. あずましプランと社協	
<b>第2章 アンケート調査の分析</b>	<b>50～68</b>
1. 福祉実践者アンケート調査の報告	
2. 月形町福祉事業アンケート調査の報告	
<b>第3章 第2期地域福祉実践計画「あずましプラン」の理念と基本目標</b>	<b>69～72</b>
1. あずましプランの意義と特徴	
2. 月形町の目標	
3. あずましプランの基本理念	
4. あずましプランの4つの基本目標	
<b>◎ 月形町社会福祉協議会 第2期「あずましプラン」</b>	<b>73～76</b>
<b>資料編</b>	
1. 月形町社会福祉協議会第2期地域福祉実践計画策定要綱	<b>77～80</b>
2. 月形町社会福祉協議会第2期地域福祉実践計画策定委員名簿	<b>81</b>
3. 第2期月形町地域福祉実践計画「あずましプラン」実践計画書	<b>82～127</b>
4. 地域福祉実践計画策定委員会資料	
5. アンケート調査資料	
6. 地域住民座談会資料	
7. 月形町福祉でまちづくり推進フォーラム資料	

# 序章 月形町の現況 ～わたしたちのまち、つきがた～

## 1 月形町の現況

### (1) 自然的条件

本町は、北西部に森林地帯が広がり、この山系から発する須部都川、札比内川、中小屋川などが石狩川に注いでいる。このうち札比内川と中小屋川の流域は丘陵地となっており、砂礫を含む堆積層が形成されている。中央部の須部都川流域は砂質土・粘性土・泥炭土などの地質で、南東部は、低地で泥炭土が分布している。

気候はやや内陸性で、冬は北西の寒風が増毛山脈によってさえぎられ、積雪が多い割には、寒気はさほどでもない。7月から8月の平均気温は19～21℃、1月から2月の気温は平均零下6℃ぐらいで、1年を通じて風は弱く過ごしやすい気候である。初雪は11月上旬、根雪は12月上旬で、融雪の4月下旬までの積雪期間は長く、最大積雪深は約150～220cmである。

### (2) 地理的条件

本町は、北海道の中央西部に、また空知管内の南西部を占める樺戸郡の最南端に位置しており、東西15.6km、南北19.5km、総面積は151.05km<sup>2</sup>を有する。

北は浦臼町に接し、南東は石狩川を隔てて美唄市と岩見沢市に、北西から南西にかけて石狩郡の当別町、新篠津村にそれぞれ接している。札幌市には約50km、岩見沢市に約20km、厚田村の日本海岸に約34kmの距離にある。



### (3) 歴史的条件

月形町は、樺戸集治監（明治14年～大正8年）の初代典獄に任ぜられた月形潔の姓を取り、明治14年7月1日、空知支庁管内第1号の村として誕生している。樺戸集治監は、明治維新後の新政府が全国多数の国事犯や重罪犯を収容するために、全国で3番目、北海道では最初に設置され、この集治監の囚人による農地開墾や道路開削などが礎となり、今日の月形町があり、石狩川を母なる川として、肥沃な耕地と自然環境に恵まれた静かな農村として発展してきた。

昭和48年に月形少年院が開院、同58年には月形刑務所が開庁するなど、町民の間には「矯正のまち」としての意識も定着している

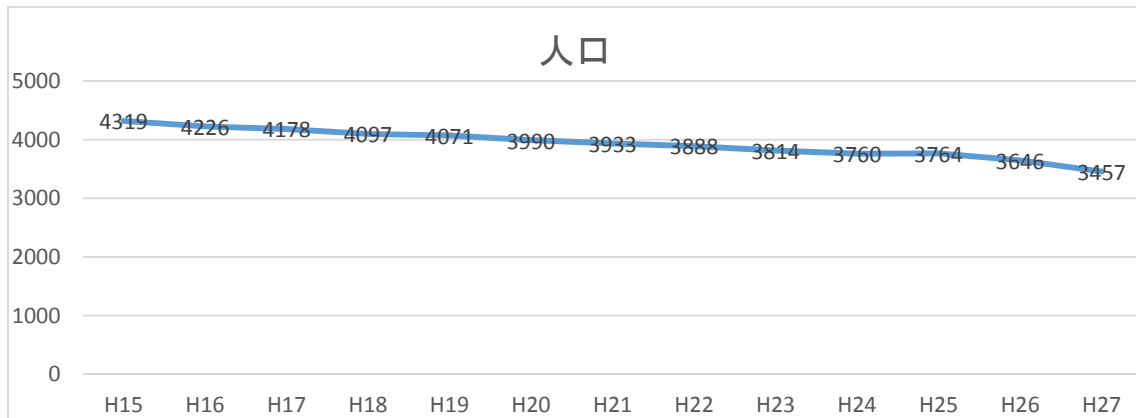
基幹産業は農業で、昭和40年代半ばには、それまで稲作中心であった農業に花き栽培が導入され、現在ではメロンやスイカ、トマト、カボチャなどの果菜や野菜の栽培も盛んに行われている。

#### (4) 社会的条件

人口推移は、戦後に人口が急増し、高度経済成長が始まって間もない1960年に9,492人とピークになるが、その後高度経済成長に伴い大都市に人口が集中したため、人口の急減期を迎えている。1985年の国勢調査では、1983年の月形刑務所の開庁と2007年の月形刑務所大規模増設（定員数が従前の3倍）により一時的に生産年齢人口（15歳～64歳）の増加があったものの、その後は、進学及び就職により札幌市や岩見沢市といった都市部への若者を中心とした転出や高齢期における離農や町外の家族との同居など、人口減少が続いている。

総人口（住民基本台帳）は平成28年3月31日現在で、3,457人。世帯数は1,749世帯である。

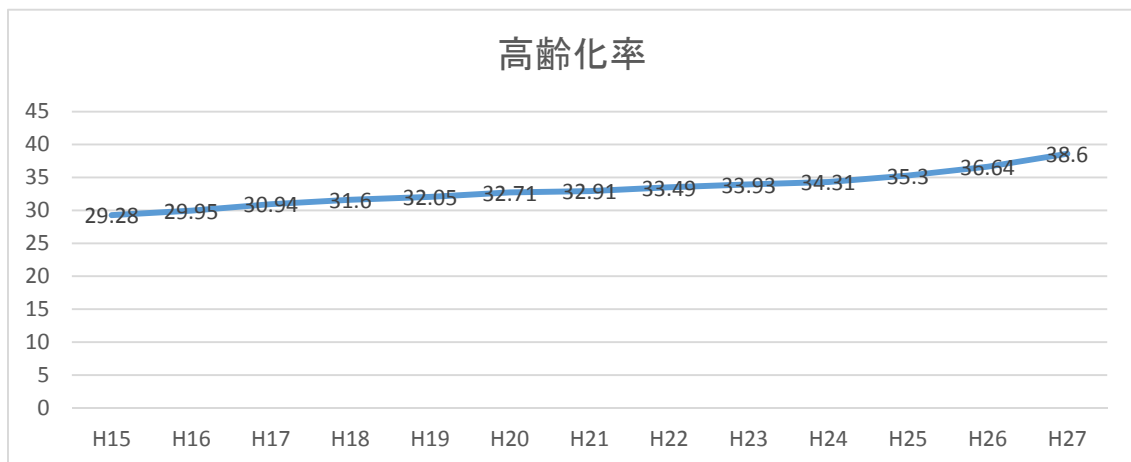
図1-1 平成15年から平成27年の月形町の人口推移



※月形町住民基本台帳より引用

高齢化率は、毎年約1パーセントずつ増えており、平成28年3月31日現在で65歳以上の高齢者数が1,337人、高齢化率は38.6%となっている。今後、団塊の世代が老年期に入ると高齢化は加速していくと予測される。

図1-2 平成15年から平成27年の月形町の高齢化率の推移



※月形町住民基本台帳より引用

## （５）経済的現況

国勢調査（平成２２年１０月１日）では、本町の就業者総数は、１，８５７人となっており、これまでの推移をみると、一貫して減少傾向にある。産業３部門別にみると、農業、林業、漁業などの第１次産業は５８９人（３１．７％）、建設業、製造業などの第２次産業は、２６７人（１４．４％）これら以外の第３次産業は９９１人（５３．４％）となっており、国や北海道に比べて第１次産業の比率が高く、農業が期間産業であることを裏付けている。

しかし、これまでの推移をみると、平成７年からの１５年間で、第１次産業は２７５人、第２次産業は１３６人、第３次産業は２０５人の減少となっており、特に農業就業者の減少が大きくなっている。

農業については、国内農業は食料自給率の向上や再生産可能な収量を確保する政策への転換を図ろうとしており、月形町の主要産業である水田農業も、この大きな情勢の変化に対応していかなければならない。このため、基幹作物の生産拡大や付加価値の向上、意欲ある農業者の育成・確保、さらに優良農地の確保と有効利用などの課題も多く残されている。商業においては、近郊都市への大型店の進出や自家用車の普及により、購買力の多くが町外に流出するなど、商業経営は一段と厳しさを増しており、既存商店街の疲弊が著しい。一方、観光においては、月形樺戸博物館、月形温泉、皆楽公園など個性ある観光資源を有しており、月形町経済の活性化のためにも、これら施設の効果的な活用に努める必要がある。

## （６）保健・医療・福祉サービス等について

本町の保健サービスは、保健師並びに栄養士が生活習慣病予防対策として健康教育をはじめ、健康相談、栄養指導、特定保健指導などの個別指導を推進している。各保健事業や健診では、乳幼児健診、歯科検診、予防接種などの母子保健、また、特定健康診査をはじめとする各種検診を実施している。児童対策においては、核家族化や女性の社会参加が増加しており、保育所に対する通年保育や低年齢児童の保育などの要望に応じ、平成１１年４月に通年型の保育所を開所。平成２７年度には、保育所と幼稚園が統合され、認定こども園が開設されている。

本町の介護保険施設は、特別養護老人ホーム・養護老人ホーム、介護老人保健施設と計４カ所ある。在宅支援サービスは、デイサービスセンター、通所リハビリステーション（デイケア）、訪問介護事業所があり、グループホームは設置されていない。高齢者の相談機関として、地域包括支援センターが町直営で運営されている。その他、要介護者のケアプラン作成等を実施する居宅介護支援事業所は、１カ所ある。

障害者福祉サービスは、入所施設、就労支援事業所、相談支援事業所、地域活動支援センターと計７カ所、グループホームは９カ所と障害者への在宅支援が充実している。

その他、ＮＰＯ法人は２カ所あり、生活困窮者への相談や若者の就労支援を実施している事業所と障害者への就労支援を実施している事業所がある。

上記の内容から、本町は人口の割合に対し、福祉施設が充実していることがわかる。

医療サービスは、町立病院が１カ所あり、緊急搬送の受け入れも行っている。しかし、診療科が不足している現状もあり、町外の病院やクリニックを利用している方も多い。ま

た歯科医院が2カ所、整骨院が1カ所、針灸院が1カ所ある。

図1-5 福祉施設一覧

区分	種別	数	備考
高齢者福祉サービス	特別養護老人ホーム	2	月形藤の園（60床）、月形愛光園（50床）
	老人保健施設	1	月形緑苑（70床）
	デイサービス	1	愛光園に併設
	デイケア（通所リハ）	1	月形緑苑に併設
	養護老人ホーム	1	月形藤の園に併設
障害者福祉サービス	入所施設	2	雪の聖母園（60床）友朋の丘（40床）
	就労支援施設	3	就労支援センターオプス（就労移行支援、就労継続支援B型）
			ワークサポートいぶき（就労継続支援B型）
			サトニクラス（就労継続支援A型）
	相談支援事業所	1	地域生活支援センターふらわー
	地域活動支援センター	1	社会福祉協議会に併設
グループホーム	9	雪の聖母園（5カ所）友朋の丘（4カ所）	
医療サービス	病院	1	月形町立病院（40床、内科、整形外科）
	薬局	1	ナカジマ薬局
	歯科医院	2	はーと歯科、山崎歯科医院

※町提供データ（平成28年3月31日現在）より引用

### （7）介護保険に関する現況

介護保険制度における要介護認定者数を見ると、ほぼ横ばいに推移している。しかし、現状としては、介護認定者は増えているが、離れて住んでいる家族との同居や家族の居住している地域の高齢者施設へ転居する方も多く、増減はほとんど見られない。また、介護認定を受けているが、介護サービスを利用していない在宅高齢者が約3割いることも特徴として挙げられる。

図1-3 居宅介護（介護予防）サービス受給者数の推移

	25年度	26年度	27年度
居宅サービス	83	96	85
施設サービス	96	93	92
利用サービスなし	76	64	81
合計	255	253	258

※町提供データ(平成28年4月1日現在)より引用

要介護認定区分の推移を見ると、それぞれの区分での大きな変化は見られないが、要支援1、要介護1、要介護3の認定者が多く、主に在宅支援を必要としていることが特徴として挙げられる。

図1-4 要介護認定区分の推移

	25年度	26年度	27年度
要支援1	52	51	38
要支援2	27	34	35
要介護1	49	51	54
要介護2	18	18	23
要介護3	31	15	26
要介護4	36	43	39
要介護5	45	41	40
合計	258	253	255

※町提供データ（平成28年3月31日現在）より引用

障害者の状況は、身体障害者が237人、知的障害者が53人、精神障害者が16人と身体障害者が多い傾向にある。

子どもの状況は、在籍園児数は、0歳児が2名、1～2歳児が12名、3歳児が19名、4歳児以上が30名の総数63名である。出生率の低下による少子化が進んでいる中、若い世代が安心して子どもを生み、健やかに育てていくことができる環境作りを町全体で支援していく必要がある。

#### （8）月形町社会福祉協議会の現況

本町の社会福祉協議会（以後社協）は、訪問介護事業所と地域活動支援センターが併設されており、老人クラブ連合会、遺族会、身体障害者協会の団体事務局の運営も担っている。現在の職員体制は、事務局長1名、事務局職員が5名、訪問介護事業職員が4名、地域活動支援センター職員が2名の計12名である。

社協は地域福祉の推進役として町の受託事業のほか、介護保険事業等、各種事業で取り組んできた。平成24年度には第1期月形町地域福祉実践計画が策定され、4つの基本計画に沿って事業を展開している。

本町の特徴として、人口規模は小さいが福祉施設が多く、これまで各施設の施設長が集まり意見交換会を行っていた経緯がある。平成18年度には地域福祉ネットワーク推進事業と事業化をし、教育機関やボランティア団体を含めた各関係機関との連携を強化している。第1期計画でも、この社会資源を生かし、地域の交流事業や施設職員の資質向上の研修事業、企業の新任を対象とした研修会も行っている。

また、核家族化が進む中、近所づきあいの希薄化による高齢者の孤立や引きこもりの解消のため第1期計画の中でも、高齢者の居場所づくりや生きがいを目的としたふれあいいきいきサロン事業が実施されている。活動は行政区単位で地区のボランティアの協

力のもと進めている。活動を始めた地域も少しずつ増えており、第1期の計画の中でも力を入れてきた事業の一つである。

その他、本町では今年度より日常生活支援総合事業の取り組みが開始されている。今後ますます増加が予測される高齢者支援を地域住民の支え合いの中でどう支援を展開していくかが問われており、ボランティアや町内の各種企業を含めた地域住民の力が求められている。

現在の社協独自の取り組みとしては、電球の取り替えやゴミの分別、ゴミ捨て、草刈り、買い物の付き添い等の日常生活での些細な支援を住民が担い実施する有料ヘルパー事業として、生活支援サービスが今年度より設置され実施している。その他、町内の各種企業、団体等が生活支援・介護予防サービスに参画し、支援を展開できるよう生活支援協議体の設置が予定されており、その連絡・調整を担う生活支援コーディネーターが社協に配置されている。

今後、買い物や通院といったライフラインには欠かすことのできない生活の困りごとをどのように地域住民が考え、行動に起こすのかが重要であると考えられる。